

## 沖縄・辺野古に行ってきました

私は、3月3日から7日まで沖縄に行きました。一番の目的は、普天間基地の移設により、名護市辺野古地区に海上ヘリポート基地を建設し、併設するキャンプ・シュワブと一体化し、米国の戦争出撃巨大基地となることを、地元住民、オバア、オジイ、海人が非暴力で反対し続けている活動に自分もすこしでも参加したいとおもいからでした。そして、地元住民オバア、オジイ、海人の反対の思いを肌身で感じたかったからです。

3月3日は16時過ぎに現地「座り込みテント」に着きましたが、例年のない寒さ、冷雨のためか人影はありませんでした。4日は、7時現地集合で、挨拶もそこそこに漁船で、海上に建てられた調査用の「第5ヤグラ」に行きました。ヤグラは単管（鉄パイプ）を継ぎ手（クランプ）で固定したものです。現地の方は「ヤグラ」のことを「たんかん」と呼びます。ひかれた天板の隙間からきれいな辺野古の海に泳ぐ魚たちが見られました。寒さのため脚が硬直・ケイレンしました。5日は終日「座り込みテント」にいました。土曜で寒さが著しいため、テント村でオジイ、オバア、には会えませんでした。全国からテント村に激励・見学に来ていました。6日は、大里村のうふざと教会の礼拝・愛餐会に参加しました。教会のお勧めで佐喜眞美術館に行きました。また、嘉手納ロータリー近くの「道の駅」屋上から嘉手納基地の巨大さを実感しました。沖縄国際大学の米ヘリコプター墜落による黒焼けた校舎も見学しました。帰路、北谷町のジャスコによりセールで裏起毛のトレーナーを買い寒さ対策をしました。7日は沖縄で毎回行く糸満市の「平和の礎」を散策・買物後帰京しました。

1. **3月3日**：一人旅は若い頃から好きでした。自分との対話や深く考える時間を与えてくれます。他人任せではなく自分で計画を立てます。旅先で様々な人と初めて出会います。色々な思いが湧きます。しかし、今回は辺野古でのヘリポート基地建設反対に参加するという目的があり、いつもより緊張していたのは事実です。初日の3月3日は木曜で現地に着いたのは4時過ぎでした。沖縄はこの時期には珍しく、冷雨、寒さが著しく気温10度を割るところも多かったのです。「座り込みテント」には人影がなく、近くで防衛施設庁に雇われたガードマンが海を監視していました。私は、宿にとった辺野古の隣の二見地区にある「海と風の宿」に行きました。オーナーは現在持病治療のため入院中。女性従業員のSさんが宿のシステムを紹介してくれました。宿には、反対運動に長期間参加しているMさんがいました。明日の行動をともしてくれるとのことで一安心しました。夕食代（600円）を支払っても、料理・洗い物の手伝いを自然にしているところが面白く、「疑似家族」のような雰囲気でした。勿論、自炊で干渉をしたくも、されたくもない人は気ままにしている構わないのです。「自分の意思に従って」「自然に」「ゆっくりと」というのが、この宿に感じた私のイメージです。夜は、泡盛を飲みながら、同宿した者が自然に語り交流します。ウクレレや三線が流れてきます。
2. **3月4日**：前夜泡盛を飲み過ぎてしまい、携帯のアラームでも目覚めぬ私をMさんが起こしてくれました。ご飯、みそ汁、納豆、イカの塩辛を掻き込み私のレンタカーで辺野古に行きました。遅くても7時集合です。Mさんに言われたとおり、ウエット・スーツ、ライフジャケット、ブーツを着込み漁港に集合。沖縄平和連絡会、ヘリポート基地反対協議会のリーダーから

今日の行動提起・諸注意の発言がありました。初めて参加する私の自己紹介を、「千葉からきた I. です。仕事先の社長は反動の石原慎太郎です。前々から現地に来たいと願っていました」と挨拶しました。私は「ゴン助」という漁船に乗り込みました。船長は20歳すぎのSさんです。HPもあるようです。「第5ヤグラ」は初めての参加者が行く定番です。辺野古漁港から見て右端にあり、毎日くる防衛施設庁側の監視船(漁船をチャーターしたものです)が最後にくるヤグラです。すでに、監視船が回ったヤグラからトランシーバーで、作業船(建設会社のチャーターした漁船です)や監視船が何をしに来たか情報が入ります。ヤグラに着き、風よけ兼スローガンの書かれたムシロを張りました。一息ついて「第5ヤグラ」に登る仲間6人の自己紹介をしました。私以外は長期に現地で反対活動をされている方々でした。挨拶後、一人の仲間から、「初めての人は船に乗船しているのがルールだったんじゃない？」という提起がありました。これは初心者の安全を守るための好意からの発言でした。それに対して、後で分かったのですが、クリスチャンで大学教授をされている方が、「そういうルールは確かにあった。こうしましょう。相手側の船が来たら I.さんは船に移ってもらうということで良いかな？」という折衷案に落ち着きました。海上ヤグラはとにかく強風で例年にならない寒さでじっとしていることができませんでした。私は十分な保温対策をしてこなかったため、ウエット・スーツの上からレインパーカー・ライフジャケットを着ていても、ガタガタと震えていました。頭がポツとする位でした。太陽の当たるヤグラの端に寝ころび、心の中で「イエスの苦しみはこんなものではなかった。神様私を支えて下さい」と思わず叫びました。脚が硬直しツッてしまいました。自分で黙って脚の親指を引っ張り回復。仲間迷惑を掛けたくないという思いでした。曇っており海の美しさが半減していましたが、それでも、ヤグラの天板の隙間から辺野古の海は海底まで見えました。この辺野古一大浦湾に巨大基地を作る理由が理解できません。巨大戦争出撃基地建設のために美しい海を埋め立てて良いのでしょうか？この海の恵みで暮らしてきた地元住民オバア、オジイ、海人の生活を破壊して良いのでしょうか？私の税金がこのような基地建設計画に使われていることは嫌です。国民は納税者として基地建設計画に反対すべきではないか？娘のメールの題名にあった「ジュゴンきたぞー」が守られるように私のできることは何ですか？平和を守るために「私は行きます...」という応答がいつかの礼拝であったな。クリスチャンやその求道者は「正義や平和」を守る使命があるんだよな？等々寒さに震えながら考えていました。

午前中、作業船・監視船が「第5ヤグラ」にも来ました。作業船の建設会社(サンコーコンサルティング)の代表が、「ヤグラのクランプの腐食したものを取り替えたい」とお願いに来ました。これは事前に仲間内で連絡を取り合い受け入れることになりました。海の上では、船同士をロープで横付けしなければなりません。ロープ渡しなど当然協力します。気になっていたのは、監視船に名を名乗らない人々が、ビデオ・カメラ撮影やメモを撮っているのです。防衛施設庁+公安関係の人々です。文字どおりの「監視」です。

昼食は担当漁船が各ヤグラを巡回して弁当を配ります。オマケに付いた足が指の太さ位ある大きなイカ焼きを食べました。こんな昼食は私には初めてでしたが感慨深いものでした。一つだけ失敗がありました。弁当のプラスチックの蓋を風で飛ばされ海に落としてしまいました。仲間が一瞬「アッ」と声を出しました。海上を見回しましたがもう見つかりません。漁場である辺野古の“美ら海”を海上でも漁港でも汚してはいけません。空腹でそこまで考え

が及ばぬ私でしたが、仲間はそれ以上私には何も言いませんでした。後は自分で考える事だからです。何のためにヤグラに来ているのか。基地建設計画反対には当然環境破壊反対も含むのです。本当に「辺野古の“美ら海”ご免なさい」でした。こうした活動に参加するためには、①体調や衣類調節などの自己管理ができること。②当たり前ですが身勝手な行動は特に海の上では許されません。事故につながります。③環境を汚さない配慮ができること。この3つは最低限の鉄則です。

午後寒さに震えていました。また作業船・監視船が「第5ヤグラ」にも来ました。今度は、「パイプ(単管)と夜間用赤色灯の電池を交換したい」との希望でした。パイプ交換は回答できない。希望は聴いた。夜間用赤色灯の電池交換は応じる事にしました。建設会社側は、「パイプ交換を強行はしない。強行はしないというのは、“やらない”という意味ではない。」と言いました。私は考えました。確かにパイプは腐食すればヤグラの上での活動は危険です。しかし、地元住民、オバア、オジイ、海人の了解がないのにヘリポート基地建設のために調査用ヤグラを建てたのは防衛施設庁、在日米軍です。ヤグラが腐食して壊れ、機能を果たせなくてもその責任は防衛施設庁、在日米軍及び日本政府にあります。地元住民、オバア、オジイ、海人、ヤグラの上で基地建設を監視し、反対行動をしている私たちにはありません。基地建設を断念し、辺野古の“ちゅら海”を汚さぬようにヤグラを自主撤去するのが彼らの執るべき最良の道なのです。作業船の乗組員は沖縄の人々です。彼らも本心は「基地建設はしたくない」のかもしれませんが。ただ働き給料を得るために建設会社で働いているのです。誰も、沖縄人同士で争いたいと思う人はいないはずです。

作業船・監視船が帰ったことを確認して、ヤグラからの撤収準備を開始し、連絡により辺野古漁港に帰ることになりました。今日のヤグラでの活動が終了しました。漁港に戻るとオジイ、オバアが岸壁から大きく手を振って待っててくれました。海上・ヤグラでの活動はオジイ、オバアたちの“座り込み”行動と連動したものです。座り込みは間もなく365日を迎えます。各ヤグラから戻った仲間が座り込みテントに集まり活動報告を行い、情勢分析や反対活動から地元に戻る仲間や学生の紹介をしました。

テントのなかで平良牧師のご両親と対面しました。お父様が昼に食べたイカがまだあるから「食べて行きなさい」と言いイカを焼いて下さいました。お母様は、「三・一教会から派遣されてきたの？」と質問されたので、「いいえ、私個人で来ました。」と答えました。お母様は、「この反対活動には多くのクリスチャンが参加しているのよ」と教えてくれました。私は、熟慮しないで「辺野古で“青空礼拝”ができますね？」などと呑気なことを言ってしまいました。別れ際、「また辺野古に来ます」と言い、お二人と握手をしました。(これは私の最近のクセです。信頼し合える人々とは握手をして、「あなたに会えて良かったです」と実感を込めたいからです。)別のヤグラに行っていた同宿のMさんは、「今晚は、学生が関西の大学に戻るなのでそのお別れ会を山の中の別荘でするのでそちらに行き泊まる」とのことで、一人で宿に戻りました。「海と風の宿」では約束で私が夕食を作り従業員の方と二人で食べました。野菜のトマト煮と焼肉レタスとお餅のサラダです。お餅は、冷凍してあったものを「イカの切り身」と間違えてしまったのです。沖縄のお餅は「粉もち」と言って米粉で作ったものでした。湯煎をしても形が崩れず、食べるまで「イカ」だと思っていたのです。「ベジタリアンには良い夕食メニューだね」とか言いながら食べました。夕食後宿の隣りに住む「ゆきオバア」が雪花菜を持っ

てきてくれて、しばし談笑しました。子どもたちはみんな島を出て一人暮らしです。夕食も少し味見をして貰いました。楽しい一時でした。また連泊組と大学生3人とで泡盛を飲みました。外は雨で明日も寒い沖縄になるだろうな～と思いながら床に就きました。

3. **3月5日**：今日も沖縄は寒い一日でした。土、日は緊迫していなければ、基本的には海上での反対行動はありません。「座り込みテント」に少し遅れて宿から向かいました。寒さに震えながら、テント内で談笑したり、布きれに、基地建設反対や戦争反対、平和を守ろうと言った趣旨を書き込み、米軍基地や「座り込みテント」のフェンスに張る人々、疲れてゴザを掛け布団にして寝ころぶ人、寒さに耐えようとお菓子や暖かいコーヒーで暖をとる人と様々でした。一見のんびりしていますが、「座り込みテント」に詰めていることは、基地建設反対の意思を貫き、表現すること。いつ、土、日とはいえ、防衛施設庁側が行動するか分かりません。監視をする必要があります。寒い辺野古です。オバア、オジイが座り込んだら風邪をひいたり体調を壊します。オバア、オジイの休息日が必要です。10時半位に、軽トラでお弁当を売りに来ます。早々、私も350～400円位の弁当から品定めをして買いました。腹を空かした足の不自由な仲間のTさんは、買ってすぐに食べてしまいました。そして、食べ終わったTさんが、「1日1回は海に出ないと気分がしゃんとしない。〇〇ジイの船で海に出よう！定員3人まで」と急な発言があり、即座に私は手を挙げ、5人で漁船に乗り込み、Tさんの操船で辺野古の沖合に向かいました。「目指すは東島！ここは夏のキャンプには最高！」とTさんが紹介してくれました。波の浸食で島にはいくつもの洞窟が海にせり出していました。私たちの急な海上ツアーに、防衛施設庁の監視船がすぐに反応し、監視し出しました。Tさんの案内で、“キャンプ・シュワブ”を海上から見ることができました。「あそこの赤い屋根が見えるでしょ。あれは、思いやり予算で作られた海兵隊の福利厚生施設なんですよ」「米国国旗、『日本国旗』が半旗になっているでしょう。“キャンプ・シュワブ”からイラクに派遣された海兵隊に死者が出たから、半旗になっているんですよ」「グランドのような芝生が見えますね。あれは、24時間、パラシュート訓練やヘリコプターが急襲訓練をできる施設なんですよ。極東では唯一の訓練場所かな」と、Tさんの案内は止みません。辺野古漁港の岸壁から、この芝生での急襲訓練が見られるとのこと。そう言うときは、漁をすることが禁止されるとのことでした。まさに、陸も海も米軍基地の沖縄を突きつけられました。船を追って小魚が空を飛びます。ジュゴンの来る美ら海辺野古～大浦湾とキャンプ・シュワブは繋がっています。辺野古に海上ヘリポート基地ができると、巨大な戦争出撃基地になってしまいます。また、私たちの税金が、あのような米軍の福利厚生施設や将校用ログハウスに使われています。沖縄在日米軍の基地運営に使われているのです。何か、そういう戦争や戦争準備のために私たちの税金が使われるのは拒否したい。そんな納税者としての意識をかき立てられました。ツアーを終え、「座り込みテント」に戻り、先程買った弁当を食べました。陸に上がると、海上の方が暖かったと感じました。そうです。希な寒波のため、海水温の方が暖かな位だったのです。午後からは、本土からの大学生グループや労働組合の人々、沖縄の都市に住む方々で久しぶりに来たという女性たち等が「座り込みテント」を訪れ、ヘリ基地反対協議会のリーダーたちが、辺野古のたたかひの歴史と意義を熱く語っていました。それでも、例年にない冷雨は止みません。ある平和運動家の老紳士が言っていました。「確かに寒い。だけどたたかっている私たちには”涼しい”と思えば良いのだ。」と述べていました。な

る程と思いましたが、本当に陸の上は寒い辺野古でした。16時過ぎに、今日の座り込みのまとめをし、「座り込みテント」内を整理整頓し、持ち帰るものをトラックに積み込み解散しました。昨日宿に帰らなかったMさんと「海と風の宿」に戻りました。今日も私が夕食を作る！宣言をして朝、宿を出たのですが、従業員のSさんが、シチューを作っていました。Mさんと、「寒かったから夕食は豚汁にしよう」と、帰路、「共同売店」で島豆腐や豚肉を買い込みましたが、「シチューも洋食の豚汁と思えばいいか？」という事になりました。我を張らないこと。”大体で・・・良い意味でいい加減で“沖縄風の「テーゲー」の感覚でいけば、不満や争いをすることもありません。ただ、島豆腐は、同宿のプロのマジシャンのU君の手を借りて、予定とおり”揚げ出し豆腐“ができ、また沖縄産の野菜と買った豚肉で炒め物もでき、今夕は5人で少し豪華な夕食となりました。結果”○“正解でした。

夕食後は、近所の三線の師匠が訪れてくれました。それは、私が“本物の三線”が欲しいと前夜言い出したからです。そのため、泡盛の時間は、師匠が三線のイロハを講義することになりました。結局三線を私は買いました。師匠のライブCDつきです。これから、教本を探し、時間があつたら三線の練習をします。本当に私に時間があるかどうか分かりませんが。夜が更け、寒さが身体にこたえたのか、そして、明日は大里村に行くため、早めに休みました。

4. **3月6日**：今日は宿を出ます。朝、従業員のSさんと別れを惜しみつつ、「お互い元気にね」と言い、車のナビを大里村の“うふざと教会”に合わせました。沖縄自動車道を南下。1時間以上かかり教会に着き、10時からの礼拝に間に合いました。礼拝の牧師の言葉は忘れてしまいました。ただ、牧師がマイクを使いお話しをし、賛美をするため、私の座った隣りにスピーカーがあるため、音響がビュンビュン響きました。「なんてパワフルな教会なんだろう？」というのがファーストインプレッションでした。辺野古にいるときの牧師はいつも黒のウエット・スーツに包まれており、誰かが「あれはトドだよな？」(内緒です)と言っていましたが、教会では、何か、米国の黒人教会の牧師さんのようで、やっぱり熱い方だなと感じました。ゴスペルでも歌い出したら、本当に米国の黒人教会のようです。それはそれで、私には、実はすごく感動的でした。辺野古のことを十分に知らずに3日間過ごしました。とても緊張した3日間だったのです。でも、礼拝で牧師が、「こんな至らない私たちを神様はゆるして下さっています。愛して下さいます。．．．．．」と話されると、緊張の糸が切れて、私の目頭は熱くなりました。「辺野古もうふざと教会も来て良かった。恐れや心配を越えて来てみて良かった。」そう心から思えたからでした。病身で入院している母のこともいつも頭から離れませんでした。でも、心を決めて沖縄に来て正解だったのです。珍しい寒い3月の沖縄もなかなか体験できるものではありませんでした。礼拝後、愛餐会を教会の食堂兼キッチンで食べました。韓国へ教会で行ったお土産らしく、韓国産の海産物が沢山ありました。“おでん”もあったし“しぐれ”という本土から届いたアサリの佃煮も絶品でした。ヤグラの上で出会ったクリスチャンの教授も礼拝、愛餐会にきており、前週アメリカに滞在していたときのカルフォルニアのチョコレートも美味しかったです。正直言うとみんな美味しく何を食べたか覚えていないのです。ここでも、隣りに座った牧師がパワフルに食べ、喋っていました。何か元気を貰い食べているような妙な気持ちになりました。13時近くに教会を出て、「ここに行ったらエエヨ」という関西系の女性の紹介してくれた、宜野湾市の佐喜真美術館、個々には丸木位里、俊

夫妻の描かれた、沖縄戦自決の絵が大キャンバスに描かれていました。嘉手納の道の駅の屋上も紹介されました。屋上から米軍の巨大な輸送機や長い滑走路、広大な基地が一望できます。その後、北谷<sup>ちやたん</sup>のジャスコで買い物をし、沖縄国際大学の昨年の米軍ヘリコプター墜落現場に行きました。校舎は黒く焼けただれたままです。現在、大学の理事会側がこの現場の撤去に動いているとの事でした。撤去するにしても“保存”の形をとること。この事件を2度と起こさせないものとして保存することは最低条件です。私は、何度もカメラのシャッターを押しました。夕闇が落ちた頃私は、国際通りの“公設市場”のいつも行くエプロンやテーブルクロスを売るおばちゃんの所に行き、母が世話になっている病院の受け持ち看護師さんにプレゼントするため、はやりの“ちゅらさんエプロン”を価格交渉して買いました。夕食は、公設市場2階の“ツバメ食堂”に行きました。ここのオーナーは台湾出身のママです。ママに、「覚えていますか？また来ました。一人なんですが席はありますか？」と話したら、相席を作ってくれました。料理を頼むと一人では食べ切れません。向かい席の愛知県からきた初老の夫婦に春巻きを差し上げたり、隣の女子大生風の岡山から来た二人連れからお粥を貰ったりで、沖縄の旅は面白いな、気取ったところはないし、気楽で。食事も見知らぬ人と分け合って食べるなんて、本土じゃ絶対あり得ないなアーとか思いました。その後、今日の宿であるビジネスホテルに向かいました。早く休みましたが、どうも狭い部屋は窮屈で、夜中に3度程目を覚まし、朝を迎えました。朝は暫くぶりの朝日に迎えられました。

#### 5. 3月7日：

今夕沖縄を発ちます。今日の目指すところは、“ひめゆりの塔”中の資料館は以前来たので今回は省略。お金も心寂しいので。外の乙女たちが自決したという洞窟を上からですが写真に収めました。ここは観光の定番になっています。次に、沖縄に行ったら必ず行くのが“平和の礎”です。太田県政の時代に作られたもので、沖縄戦で亡くなった沖縄民間人、旧日本軍、これに従軍させられた、台湾、韓国、朝鮮人民共和国、米軍、英国の戦没者全ての名が沢山の沢山の墓石に刻まれています。私の見た限り、沖縄の民間人の方の戦没者が多いな—という印象でした。沖縄の民間人の人々は、旧日本軍の命令で自決したり、降参の白旗を揚げられず米軍に殺戮されたのです。「沖縄は平和を覚え、拓げるために尊い沢山の犠牲者が出たんだな。戦争は許されません。集団的人殺しです。誰も喜びません。イエス様は嘆くでしょう。．．．」等と思いシャッターを切りました。歩き疲れ、木陰で食べた“紅芋入りブルーシーアイスクリーム”美味しかったです。

その後、三線を買ってお金のなくなった私は、市内に戻り那覇郵便局でお金を降ろしてから、また那覇の街中に戻り、“ユニオン”というスーパーマーケットに向かいました。理由は、沖縄土産は沖縄のスーパーで買うのが一番と覚えたからです。沖縄の人が普段食べている食材が、沖縄の価格(?)で売っているからです。黒砂糖も泡盛も土産店より安い。“輸入食品、お菓子が買える”のです。ユニオンの他にも、スーパーはあります。田舎にある「共同売店」で買い物をするのもお勧めです。

と言うことで、長いことおつき合い有り難うございました。その後、私は、那覇16時50分発ANA132便に乗り、美しい夕闇、眼下の島々を見ながら羽田に向かいました。

飛行機の座席で慌ただしい沖縄の5日間を振り返りました。そして思いました。「今、私が

持っている全てのものから解き離れていいという覚悟があったら、沖縄で平和活動を、基地建設反対運動を行い、沖縄の教会で求道を続け、また時間を見つけて沖縄の海と愛し合いたいナ．．．．」等と書いた寝をしました。

メインである辺野古でのヘリ基地建設反対運動への少しの参加。とても心を揺り動かされました。辺野古の人々の、共感する全国の人々のたたかいにより、米国、小泉首相、町村外相らが、「辺野古にこだわらない」等と言い出しました。アメリカでの所謂、“ジュゴン裁判”で、ジュゴンを稀少動物として保護すべき対象かどうか争われましたが、「ジュゴンは守られるべきだ」との判決が出ました。他方、名護市長は、いまだにヘリ基地建設受け入れの当初からの方針を変えていません。防衛施設庁も同様。2月には、ヘリ基地建設促進派の集会在久しぶりに持たれました。でも辺野古のたたかいは、今日も、明日も、明後日も、その先も、現地で、国会前で、全国のあちこちでたたかわれています。愛香牧師が言っていました。「唯一負けない方法はたたかい続けることです」(ニュアンス)私も現地に赴きそう思いました。辺野古でオジィ、オバァ、海人とともにたたかっているクリスチャンも沢山とは言いませんが確かにいます。たたかい続けるとは、現地に行くことも、カンパをすることも、心の中で、「軍事基地建設には反対です」と祈ることも、ジュゴンや沖縄の自然を守りたいと願うことも、願いや祈りを手紙や垂れ幕に書き、送ることもできます。沢山のたたかい方があります。自分のできる行動が沢山集まれば、現地の最前線でたたかっている人々に勇気や愛を送ることができるでしょう。三・一教会でできる、辺野古でのヘリ基地建設反対運動とは何かを考えませんか？そうした私たちの行動に、神様もイエス様も賛成して下さると思います。正義と平和を守るために、「私は行きます」と。どんな行き方があるのか、行き方について話してみませんか？今私はそう思います。

2005年3月13日 M. I.